

2 長期的なビジョン（将来像）

個人、企業、行政、団体の参加と協働によって、実現すべき神奈川における持続可能な社会について、2033年の姿を表した長期的な「ビジョン（将来像）」です。

2033年、わたしたちの神奈川では・・・

海や川の水はとてもきれいで、子どもたちは水と遊んでいる。
夜には、星が降るように見える。

ゆっくりと15分も歩けば豊かな水や緑があり、だれもが遊び憩う。

人々は鎮守の森や里地里山の手入れをし、身近なところでも野菜や草花を作っている。

干潟や湿地には貝やカニ、魚がいて、たくさんの水鳥がやってくる。

丹沢のブナ林など、森林は元気を取り戻し、昔からのいろいろな動植物がバランスよく生態系をつくっている。

作った人の顔が見え、どのように作ったかがわかる表示のある、安全で安心な農林水産物や食品を必要なだけ買うことができる。

神奈川で作られた農林水産物の多くが神奈川で使われている。



ものは大事に長く使い、使えなくなると、リサイクルしたりエネルギーに変えたりして、ほとんどごみにならなくなっている。

再生可能エネルギーや水素エネルギーの利用が増え、エネルギーを無駄なく効率的に使う生活があたりまえになっている。



情報通信技術を活用して、エネルギーが賢く使われているまちや住宅が増えている。

工場やオフィスの管理、ものづくりや配送などあらゆる事業活動において、環境に与える影響を把握し、改善する努力が継続的に行われている。



どの製品にも環境や人にやさしいかどうかわかるラベル（環境ラベル）がつき、だれもがそれを見て、環境や人のことを考えて買い物をしている。

有害な化学物質は、みだりに環境中へ放出されないよう厳重に管理され、継続的に使用量を減らしている。

徒歩、自転車、鉄道、自動車などを上手に組み合わせる環境を考えた多様な移動システムが定着している。

子どもやおとな、高齢者、障がい者、さまざまな国籍の人など地域のあらゆる人々が、互いに学び合いながら、環境のあり方について話し合い、進む道を決めていく参画のシステムが発展している。

身近な範囲でさまざまな交流が行われ、いざというときに、互いに支え合い、助け合う仕組みがつけられている。

在宅勤務や自営、農業との兼業が増えたり、地域活動・社会活動に多くの時間を使ったりし、わたしたちの暮らし方は多様化している。

世界の地域と、経験や情報の共有をし、ネットワークを活かして環境を改善する活動が活発になっている。



このように、人々は自然の循環に配慮したくらしを楽しみ、持続可能な社会に向けた歩みを続けている。